

県外派遣報告書

審判員名	伊藤 裕一	所属	中学体育連盟
大会名	第72回国民体育大会 関東ブロック大会		
期間	平成29年8月19日(土)・20日(日)		
会場	高崎市/高崎アリーナ		
スケジュール			
期日	内容	場所	
8月18日(金)	審判会議	高崎アリーナB1審判控室	
8月19日(土)	1回戦	高崎アリーナ	
	A級研修会	高崎アリーナB1審判控室	
8月20日(日)	準決勝・決勝	高崎アリーナ	
会議 講義 内容			
<p>渡邊整 氏(関東ブロック長):今大会は各カテゴリー1チームしか本国体への出場権を得られず、各都県それぞれ強い思いのあるとてもシビアなゲームになる。チームも各都県の選りすぐりのメンバーで臨んできているが、審判員も同様に精鋭されたメンバーなので自信を持ってコートに立ってほしい。正しく強いチームが勝ち上がり、本国体で関東代表として活躍することを強く願う。</p>			
<p>安西郷史 氏(日本協会):どの試合を誰が誰と担当しても同じ判定基準を示すということが求められる。その為の「ガイドライン」であり、その意図を理解しなければならない。・ゲームをクリーンにする(怪我をさせない)。・一流アスリートを判定し、商品価値を損なわないために。</p> <p>判定の要素として、FOM(Freedom Of Movement)を不当に妨げ、RSBQ(Rysm Speed Barance Quickness)に影響があるものをファウルとして取り上げる。誰の身体の中の部分が不当な接触を起こし、どのような影響があったかを判定する。これはオフェンスもディフェンスも同じ。大切なのはactionを判定し、re-actionを起こさせないこと。Block or Charge等の大きなインパクトがあったとき、グレーではなく白黒つけること。明らかなオフェンス・ファウルでなければ、多くはディフェンスに責任がありコールすべき事象となる。目の前の一つひとつをきっちり判定することで試合を管理し信頼感を得る。「ゲーム・マネージメントではなく、ゲーム・コントロール」</p> <p>2PO≠3PO。一人少ない分、多く動いて確認しなければならない。時には走ることも必要。大切なのは、今そこで行われているバスケットボールにAdjustすること。マニュアル、メカニクスは、より良い位置で確認し、判定するためのツールであり目的ではない。メカニクスを理解していても、判定力を持っていないければコントロールを失うし、どんなに判定力を持っていても、メカニクスを理解しプレーを確認できる良い位置取りが出来なければそれを活かすことは出来ない。どちらが大事ではなく、どちらもなくてはならないもの。判定にも動きにも根拠を持って取り組むこと。</p>			
<p>漆間大吾 氏(指名):「映像の使い方」。記憶はすり替わることや思い違いが生じるが、映像は嘘をつかない。何にフォーカスして活用するか。Judge < Mechanics.判定が合っていたか間違っていたかも重要だが、それよりもなぜその判定に至ったか?その前段階にどうした方が良かったのか?誰がどこでどのタイミングから捉えていくのが良いのかを検証していく。何かトラブルがあった時やプレーヤーが感情的になっている時、その前に前兆や伏線はなかったのか?プレゼンテーションの工夫にも繋がり、活用方法はいくらでもある。得てして自分というのはいかかわりが見てしまう。フラットに客観視していくことが大切。</p>			
<p>小澤勤 氏(日本協会):3POメカニクスについて。コート内で行われていることにアジャストする。その為にクローズ・ダウン・ポジションを有効活用しローテーションのタイミングにも共通理解を図る。</p> <p>3人いるということは、1、5倍のコミュニケーションが必要となる。「恐らくわかっているであろう」という考えは捨て、些細なことでも情報を共有することが大切。ゲームがより良い方向へ進み、素晴らしいゲームだったと信頼されるRefでゲームを終えられるように。</p>			

実技				
担当試合	期 日	8月19日(土)	少年女子	1回戦
	対戦カード	群馬県 VS 山梨県		主審
	相手審判	中島 弘幸 氏(千葉県)		
ミーティング内容		主任 安西 氏(日本協会)		
<p>山梨優勢と思われる中の対戦。群馬のアウトサイドからのドライブに対しての体のよせの判定をしっかりと二人で行っていた。ベンチの反応がかなり自分本位なため苦労したが、オフェンス仕掛けや影響のないプレーに関しても正しく判定できた。</p> <p>二人の協力という観点では、3・4エリアの引継ぎやカバーリングなど、二人で上手に行うことができた。2パーソンメカニックは、事前の研修会で学んだことを二人で確認しながら行うことができた。かなり以前に行っていたメカニックに近づいたこともあり、やり易さも感じた。</p>				
担当試合	期 日	8月20日(日)	成年男子	準決勝
	対戦カード	群馬県 VS 千葉県		U1
	相手審判	R:平出 剛 氏(指名・栃木県) U2:石崎 公一 氏(群馬県)		
ミーティング内容		主任 清水 幹治 氏(神奈川県)		
<p>3人がそれぞれのプライマリーを判定していて良かった。タクティカルなファールに対しての反応も良かった。ベンチへの対応について、主審の細かな配慮によりスムーズな運営が行うことができた。判定の中身で、もう少し取り上げてもいいファールがあったかと思う。</p>				
全体の感想				
<p>今大会は他のブロック大会よりも多くのS級審判員が派遣された。関東の層の厚さを感じることができる大会になった。今大会で一番感じたことは「プレゲームカンファレンスの変化」と「試合後のミーティング」の変化であった。Bjリーグ出身の審判員たちと共働することになっての変化であった。プレにかける時間は30分以上。映像を駆使したメカニックの確認や、判定基準の確認。試合後のミーティングでは、コートサイドでスマホで撮影し、そのままPCへおとしこみ、映像をみながら判定の検証とメカニックやレポートの検証…すべてが新鮮な感じがしました。これも関東中学では全く感じられず、成年というカテゴリーがあるからそのような方々が派遣されてきたということだと思いました。</p> <p>この度、群馬県協会の方々には細部にわたるまで御配慮頂き本当にお世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。バスケットボール競技の発展のため、今後も審判活動を続けていきますので、今後も宜しくお願い致します。</p>				